

多様性いかしチーム力高める



大阪府医師会理事

星賀 正明

大阪府医師会勤務医部会は、昭和48年7月に発足し、全国で最長級の歴史をもつ。月2回、勤務医に関する様々な課題を話し合っており、緊急事態宣言下においてもリモートシステムを用いて開催を続けている。現在焦点になっているのが、医師の働き方改革である。地域医療堅持の視点は医師会に集まりやすいが、若手を中心とした勤務医の声が届きにくい。勤務医部会では、在阪5大学医学部を中心とした意見交換会を定期的に行っており、数年前から医師の働き方についての議論を深めている。また、若手勤務医の意見聴取や医学部学生との意見交換会も実施している。本年2月に行ったりリモートでの学生との交流会では、医師のキャリアプランについて多様な意見が聞けた。この形式を今後発展させていきたい。

私は医学部教員として、学生、研修医、専攻医に接する機会が多いが、強く感じるのは価値観の多様性である。以前のような画一的なプログラムでは、若い世代の共感は得られないかもしれない。個々の価値観を聴き、チーム力を最も高めるように全体を調整する必要がある。

大阪においてチーム力が期待される新しい取り組みを2つ紹介したい。1つは、「産休・育休中の代替医師を確保するための運用システム」で、府医では男女共同参画に資する取り組みとして準備してきた。モデルケースとして、

循環器内科領域からの運用をまもなく開始する予定である。勤務医が産休・育休を取得しやすいように、循環器学会専門医を中心に代替の応援医師を募るシステムである。

もう1つが、大阪府立学校心臓検診システムの構築であり、心臓三次検診の新しい試みである。昨年度、「大阪府立学校心臓検診連絡協議会」を設置し、二次検診で要精密検査となった生徒を、あらかじめ登録された府内の循環器専門医に受診依頼するというシステムを開始した。この利点としては、府内全域にネットワークを広げることができ、また統一した報告書が使用できることにある。この報告書は、従来の学校への管理指導表に加えて、検診結果として本人・保護者に手渡すようにしている。従来、学校検診の結果は、家庭で保管されていない。このシステムがPHR（Personal Health Record）として役立つと期待している。

多様性をいかし、チーム力を高める——。知恵の絞りどころである。